

## H31年3月8日に第2回事業推進委員連絡協議会を開催しました

平成28年度より事業推進に取り組3年が経過しました。3年間を通じた活動の報告とともに、取組についての評価、継続していく課題等について協議を行いました。



いちき串木野市医師会長より「この三年を通して、いちき串木野市の医療、介護連携は着実に進んで来ている。更なる連携の構築を間さして薬剤師やその他在宅医療に関わる職種の参加を広げて頂きたい。」と、開会のあいさつを述べて頂き、協議に入りました。



### <取り組みの評価として>

- ・看取り支援グループの体制構築が進んだことについては、在宅診療を進める医師間との連携が深まることと期待される。それにより、訪問看護の利用や、在宅看取りの件等も増えて行くのではないかと。
- ・地域住民への広報として、在宅医療に関するパンフレット・リーフレット・配布、出前講座等を進めて来た、現状として、看取り件数や、在宅医療件数が大きく増えた実績はないが、在宅での看取りや在宅診療が地域医療の選択肢としてある事を知っていただき、在宅看取りを希望する家族は増えてきている印象はある。また、医療機関からも訪問看護利用の相談件数は増えてきている。
- ・在宅退院支援に向けての医療と介護の連携がスムーズに行えるようになって来ている。地域資源情報ツールとして医療、介護の資源マップを作成に医療、介護関係機関へ配布した事により、円滑な連携が図れているとの意見が多く寄せられた。
- ・多職種参加による研修会の開催を通して、退院支援連携、在宅医療、介護のサービス、地域医療、介護資源の利用など、情報共有を図り知識や在宅医療についての意識向上に繋がった。また研修会で顔の見える連携構築も進んできたと思われる。

### <今後の課題として>

地域住民への広報として、在宅医療、介護を必要としている対象にその人に沿った情報を伝えて行くことが必要と思われる。高齢者だけでなく幅広い年齢層に在宅医療の必要性を伝えていく事も大切である。地域のボランティア活動と連携し、在宅生活をサポートするシステムなど検討していく方法もあるのでは・・・在宅医療を進める中で口腔ケアは重要な課題と考える。在宅医療や介護の現場と歯科とのスムーズな連携構築が必要である。

MCSを活用した、歯科、薬剤師等との情報共有の充実を図る取組を進めて行く事が必要である。

\* 三年間の取組について現時点での評価や、次年度からの、更なる取組について熱心に協議して行われ、貴重な意見や提案が活発に出されました。本日の貴重なご意見を基に次年度の活動計画を推進チームと共に協議検討し進めていきたいと考えています。



いちき串木野市の医療・介護の資源マップを作成しました

地域の医療、介護の資源情報や、在宅医療のサービスについての説明や相談窓口を掲載し、地域住民や、医療、介護の現場で働く専門職が在宅・退院支援の連携ツールとして活用されるものとなりました。

\* 掲載内容はいちき串木野市医師会のホームページ、もしくは市のホームページをご覧ください

### 在宅医療先進地視察研修を実施しました



平成30年10月15日に・愛媛県松山市にあります、在宅医療を専門とする、医療法人ゆの森 たんぽぽクリニックの取組を見学し「たんぽぽ先生」こと永井康德理事長、他専門職の方々の患者さん、家族をチーム連携で支える思いを聴く機会となりました。(看護師3名・理学療法士1名・介護支援専門1名・事務職1名 市職員1名・医師会事務局1名で研修をさせて頂きました。)



平成31年2月22日 報告研修会を開催しました。視察研修を終え、地域関係職種への伝達研修会を開催し在宅医療の取組みについて共有し、知識を深めました。



「在宅医療専門機関 ～医療法人 ゆの森

「たんぽぽクリニック」における在宅医療の取組紹介～  
訪問看護ステーションさくら 所長 畑中勇二 氏  
いちき串木野市健康増進課 課長補佐 松崎知人 氏  
脳神経外科センター リハビリ部長 浦底まゆみ 氏

「視察研修を活かした患者の関わりについての事例紹介」

社会福祉協議会 居宅介護支援事業所管理者 和田麻美 氏